

国語 第6学年 目的や条件に応じて話し合おう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の第6学年（令和6年度版）に載っている話すこと・聞くことの教材。光村図書の年間指導計画例では10月に扱い、コラム「伝えにくいことを伝える」も同じ単元に入っている。他の会社の教科書を使う学級では目次で確かめる。議題は学級や学校の実際の予定に合わせて先生が決めてよい。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、話し合いの前に議題・目的・条件を確かめ、考えを広げる段階とまとめる段階に分けて話し合いの計画を立てられる。話し合いでは、自分がどの考えを支持するのか（立場）と、なぜそう考えるのか（意図）をはっきりさせて言い、相手の立場や意図を質問して確かめられる。考えをまとめる時は、多数決に頼らず、目的と条件に照らして考えを比べ、よい所を組み合わせたり、条件に合わない所を変えたりして、グループの考えを一つにまとめられる。反対の考えを伝える時に、相手との関係を考えて言い方を選べる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)ア	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討すること。
〔第5学年及び第6学年〕A話すこと・聞くこと(2)ウ	ウ それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(4)	(4) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、意図的、計画的に指導する機会が得られるように、第1学年及び第2学年では年間35単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間30単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間25単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を活用するなどして指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)イ	イ 伝え合う力、思考力や想像力及び言語感覚を養うのに役立つこと。

単元の目標

思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使う（(1)オ）。目的や意図に合わせて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討し、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする（A(1)ア・オ）。言葉がもつよさを認識し、目的と条件に合う考えを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使っている。((1)オ) ②情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。((2)イ)	①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。(A(1)オ)	①進んで、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、学習の見通しをもって、目的と条件に合う考えをまとめようとしている。

単元の流れ

全6時間。光村図書の年間指導計画例（令和6年度版）が、この単元に6時間（話すこと・聞くこと6）を配当している。次ごとの内訳はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領は、第5学年及び第6学年の話すこと・聞くことの指導に年間25単位時間程度を配当するとしている（第3の1(4)）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○話し合いの議題を決め、目的（何のために）と条件（時期・時間・場所・人数・使える物など）を確かめる。 ○教科書を読み、話し合いの進め方を確かめて、単元の見通しをもつ。	態①（見通しの記述）
第2次	2	○議題について自分の考えをもち、目的と条件に合うかを確かめて、考えと理由をメモに書く。 ○グループの話し合いの計画（広げる・まとめるの順と、司会・記録の役割）を立てる。	思①（メモ・計画表）
	3	○グループで、考えを広げる話し合いをする。質問したり、考えを付け足したりして、出た考えを表に書き出す。	知②（表・記録用紙）
	4 （本時）	○目的と条件に照らして、出た考えを比べたり組み合わせたりし、グループの考えをまとめる話し合いをする。	思②（観察・録音・記録用紙）
	5	○各グループのまとめた考えと決めた理由を発表し、全体で聞き合う。 ○自分たちの話し合いの録音を聞き直し、進め方のよかった所と直したい所を話し合う。	知①（録音・発言） 態①（観察）
第3次	6	○コラム「伝えにくいことを伝える」を読み、反対の考えや頼みにくいことを伝える時の言い方を考えて、話し合いで使った言い方と比べる。 ○単元の学習を振り返る。	態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：目的と条件に照らして、出された考えを比べたり組み合わせたりしながら、互いの立場や意図を明確にして話し合い、グループの考えをまとめられる。(A(1)オ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 議題と目的、条件を確かめる。 2 前時の考えを広げる話し合いで出た考え（グループの表）を見返す。 3 本時のめあてをつかむ。 ○「出た考えの中から、どうやって一つにまとめますか」 【めあて】目的と条件に照らして考えを比べ、グループの考えをまとめよう。 4 まとめ方を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・多数決で決める。 ・目的に一番合う考えを選ぶ。 ・よい所を合わせて新しい考えにする。 ・条件に合わない考えを外していく。	・目的と条件は、単元の初めから同じ掲示を黒板の右に貼っておく。 ・多数決が出たら、「人数で決めると、目的に合っているかは確かめられたかな」と問い返し、目的と条件に照らすまとめ方を全体で確かめる。 ・まとめる時に使う言葉（目的に合うのは、条件から考えると、二つを合わせると、など）を掲示する。
展開 (分)	5 グループで、まとめる話し合いをする（司会・記録・時計係を決めておく）。 ・考えを、目的に合うか、条件に合うかで表に書き分ける。 ・残った考えを比べ、組み合わせられないかを話し合う。 ○「その考えは、目的と条件のどれに合っていますか。合わない所はどう変えればよいですか」 6 途中で一度話し合いを止め、一つのグループの話し合いの様子を全体で聞く。立場や意図をはっきりさせた言い方と、考えをまとめるのに役立った言い方を確かめる。 7 グループの話し合いを続け、考えをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・Aさんの案は、目的には合っているけれど、時間の条件に合わない。 ・二つの案のよい所を合わせて、前半と後半に分ければ、時間内にできる。 ・ぼくは、全員が参加できるという目的を大事にしたいので、こちらの案に賛成する。 ・反対ではないけれど、場所の条件を考えると、心配な所がある。 ・それは、どういうつもりで言ったのか、もう少し聞かせてほしい。	・司会には、話し合いの計画（広げる・まとめるの順と時間）を手元に置かせる。時間は学級で決める。 ・発言が少ない子には、表の中で自分が大事にしたい考えに印を付けさせ、その理由を一つ言う所から始めさせる。 ・意見が対立して止まったグループには、「目的に戻ると、どちらが合っているかな」と目的の掲示を指す。 ・反対の考えを言う時は、相手の考えのよい所を先に言ってから、心配な所と理由を言う順を紹介する。コラムは第6時で扱う。 ・早くまとまったグループには、決めた考えに足りない所はないかを、条件を一つずつ当てて確かめさせる。 ・話し合いを端末で録音し、第5時の振り返りと評価に使う。 ◎思② 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えをまとめている。（観察・録音・記録用紙）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	8 各グループが、まとめた考えと決めた理由を一文で伝える。 【まとめ】考えをまとめる時は、目的と条件に照らして比べ、よい所を組み合わせると、みんなが納得できる考えになる。 9 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・人数で決めるより、目的に戻ると決めやすかった。 ・反対の考えも、理由があると考えがよくなった。	・まとめは子どもの言葉を使い、まとめ時に使った言葉を掲示に書き足す。 ・振り返りは「自分が立場や意図をはっきりさせて言えた所」と「考えをまとめるのに役立った友達の言い方」の二つで書かせる。 ・次時は、録音を聞き直して話し合いの進め方を振り返ることを伝える。

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、議題、めあて。その左に、目的と条件の掲示（単元を通して同じ物）。中ほどに、前時に出た考えの表（縦に考え、横に「目的に合うか」「条件に合うか」「よい所」「心配な所」）。その左に、まとめる時に使う言葉と、途中で全体で確かめた言い方。左寄りに各グループのまとめた考えと理由。左端にまとめと、振り返りの二つの観点。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、すぐに多数決で決めてしまう。手当ては、多数決の前に「目的に合っているか」「条件に合っているか」を表で確かめる手順を、話し合いの計画に入れておくこと（A(1)オ）。二つ目、自分の考えを言うだけで、相手の考えに触れない。手当ては、「……さんの考えに付け足して」「……さんの考えと比べると」と、前の発言を受ける言い方を掲示し、一回の発言に一つ入れることを目安にすること。三つ目、反対の考えが言えない、または言い方がきつくなる。手当ては、相手の考えのよい所を先に言い、次に心配な所と理由を言う順を示すこと。コラム「伝えにくいことを伝える」と結ぶ（(1)ア）。四つ目、話し合いが目的から外れる。手当ては、目的と条件を記録用紙の一番上に書かせ、司会が区切りごとに読み上げること。五つ目、司会や記録の子に任せきりになる子がいる。手当ては、最初に全員が一度は自分の立場を言う順番を回すことと、役割を交代させること。

プリントの案

議題・目的・条件カード（単元を通して使う）

一番上に議題、その下に「目的（何のために）」、その下に「条件」を時期・時間・場所・人数・使える物などの欄に分けて書く。黒板用の拡大版と、グループの記録用紙に貼る小さい版を作る。A(1)アに合わせた。

話し合いの計画表

「広げる話し合い」と「まとめる話し合い」の二段に分け、それぞれに「すること」「使う言葉」「時間（学級で決める）」の欄。下に司会・記録・時計係の名前を書く欄。A(1)オの「計画的に」に合わせた。

考えの比べ表

縦に出た考え、横に「目的に合うか」「条件に合うか」「よい所」「心配な所」の四つの列。組み合わせた考えを書く欄を一番下に付ける。〔知識及び技能〕(2)イの、図などによる関係の表し方に合わせた。

話し合いで使う言葉カード

広げる時（たとえば、ほかには、……さんの考えに付け足して）、確かめる時（どういうつもりで、何のために）、まとめる時（目的に合うのは、条件から考えると、二つを合わせると）、反対を伝える時（よい所を先に言って、心配な所と理由を言う）の四つに分けた一覧。〔知識及び技能〕(1)オ・アに合わせた。

振り返りカード（録音を聞いて）

「自分が立場や意図をはっきりさせて言えた所」「考えをまとめるのに役立った友達の言い方」「次の話し合いで直したい所」の三つの欄。録音のどのあたりかを書く欄も付ける。態度の評価に使う。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点の形、領域ごとの書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第6学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書 年間指導計画例 6年（令和6年度版）。単元の時期（10月）と配当6時間（話すこと・聞くこと6）の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1fcac788-a61c-4521-a515-9a40f3413770/368）／光村図書 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（令和6年度版）（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重